

「防災塾・だるま」

第110回 防災まちづくり談義の会

関東大震災から 91 年・・・ 首都圏を襲った台風と火災旋風 ～藤原咲平の生涯から学ぶもの～

藤原^{さくへい}咲平は、関東大震災の2年前に世界で最先端の天気予報技術を学び、1年後に「関東大震災調査報告書（気象編）」を発表した。その内容は、台風の勢力が衰えて発生する副（メソ）低気圧に伴う「不連続線」による風向や気温の変化が、**火災旋風の誘因**であることを報告したもの。しかし、気象災害の教訓としてあまり知られていない。台風に伴う局地天気解析に注目していきたい。



講師：相原 延光氏（関東学院中学校高等学校講師）

専門：地学教育、火山地質学、岩石学

- 2005年県立西湘高校勤務時SSH防災に取り組みタイ王国津波被災地訪問。
- 生涯にわたって地学を学ぶことが大切であることを学校教育現場から主張。
- 関東地震当時の気象災害を調査、歴史地震研究会や地質学史懇話会で発表。

◆日時：2014年8月22日（金）
18時～19時30分

◆会場：神奈川大学 1号館 301号室

◆参加費：無料

◆申込み：不要（直接会場にお越しください）

主催「防災塾・だるま」

<http://darumajin.sakura.ne.jp>



次回のご案内 開催日時：9月26日（金）18時～19時30分 場所：神奈川大学 24号館

テーマ：「江戸時代における横浜市域の新田開発」 講師：斉藤 司氏（横浜市歴史博物館学芸員）